切手からスイスを考える

切手による比較文化笑論

小川　義博

切手からその国を考えてみようと、オーストリー、ドイツ、フランス、スウェーデンの4ヶ国の切手を整理し笑論を記してきた。今回はうち3ヶ国に接するスイスの切手を整理し、スイスを考察してみたい。

スイスは山地が70%占める九州よりやや広い国土に大阪府とほぼ同じ数の人々が暮らす国である。食物自給率は輸入飼料を計算に入れても56%とわが国の38%よりも高い。

切手の発行状況

整理した切手は1945年から2017年までに発行された984件、2081種類を対象とした。発行の経年変化をみると図1の様に徐々に1件当たりの発行数が増してるが、わが国の様な乱発ではない。

切手の発行内容別に種類数をみると、特徴がみられる。まず、寄付金付切手が全体の32%と非常に多い。これは1909年に設立された慈善団体のために毎年発行されてきた寄付金付切手8種の約150件の存在である。また、周年記念切手が種類で約20%が、件数では約30%が発行されているのが、注意される。これを、過去に整理した4ヶ国と

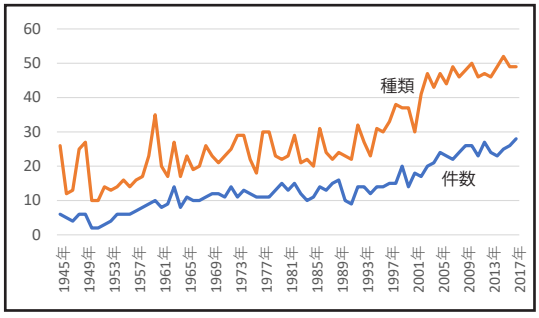


図1　切手発行の経年変化

PRO PATRIA100周年　PRO JUVENTUTE 児童福祉切手

PRO PATRIA　社会福祉切手

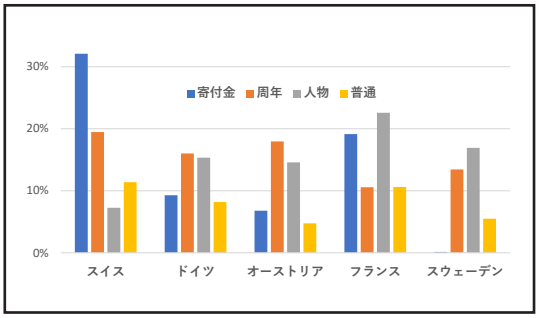


図2　切手発行種類割合の国別比較

比較したのが図2である。寄付金付切手の割合がフランスより高いのに注意された。

これより、独特のデザインと渋い凹版の普通切手と美しい寄付金付切手などをから感じ取れたことを感じたままに記してみたい。

普通切手

寄付金付切手

自治・地方自治の国

ライン、ドナウ川などの源流からして交通の要衝に位置することから多くの民族が定住しようとし、4つの言語が国語となって成立した国、自ずと自治と共存という意識ないと存続できなかったであろう。自治都市共同

1910，20 年代に発行された 23 州（カントン）の
うちの 10 州の紋章を描いた切手

体、村落共同体から組織され主権を持った小国と捉えたほうが良いカントン（州）が結成した連邦、小国が集まった集合体小国スイス。1291 年 3 つのカントンが盟約者団を結成し、周辺カントンが徐々に加盟し現在の 23 カントン (26 とも言われる) の連邦小国スイスになった（現在のスイスの正式名称は Schweizerische Eidgenossenschaft スイス盟約者団である）。しかも、カントンはそれぞれに市民主権を規定する憲法を持ち、連邦憲法に優先する内容が多いというように強い地方分権主義が根底にあるのでカントンの紋章を知ることが切手を見るうえで望まれる。

バーゼル市 BC43 年　ニヨン市 BC42 年　マルティーニ市 BC17 年

クール市 BC14 年　チューリッヒ市 BC14 年　ビーデンニッサ市 BC14 年
2000 周年切手の市とその起年

ベルナーレ峠道 2000 年 BC11 年
モンブラン東を通るこの峠道は、古来アルプス越え交通路、セント・バーナード犬のゆかりの地

更に古く BC15 年ローマの侵攻前に存在した市町村共同体 (ゲマインダー) の 2000 周年切手が自治の始まりを教えてくれる。弥生時代の吉野が里遺跡集落と同時期であるのが興味深い。またこれら市を結ぶ街道も同時期に開通していることも切手から知った。市町

3 州の代表者が集まって対ハプスブルク家自治独立のための永久盟約を結んだ 1921 年から 700 年で現在の 23 州になり小白片が白十字・スイス連邦になったことを描いたスイス連邦 700 周年切手。

最初に盟約を結んだ 3 州の紋章切手。
ウーリ州、シュヴィーツ州、ウンターヴァルデン州

ベルン州、チューリヒ州、ツーク州・ベルン州
連邦加盟 100 周年記念する社会福祉寄付金切手

ジュネーブ州

ヌーシャテル州
連邦加盟 100 周年記念切手

村の周年切手は 1989 年ドレモン市 700 年切手を最後に発行されていない。以後は、市町村（ゲマインダー）でなく州（カントン）に関係する切手の発行になり自治の規模が大きい集合体が成立してきたことを示している。最初が 1991 年発行の 1291 年のスイス同盟 700 周年切手であり、現在の 23 州（カントン）で構成されるスイスの始まりの切手である。以後、最後のヌーシャテル州、ヴァレー州、ジュネーブ州の 3 加盟の切手等、州の連邦加入を記念した寄付金切手、連邦 100、150 周年など自治、連邦を主題にした切手が発行されている。2015 年以降はこの種の切手の発行はなく、周年切手の内容が社会、文化面の内容になっている。

また、異なる切り口からも、地方分権、市民主権を重視した国であることを感じさせられる。それは人物切手に見られる。中央集権でなく、大統領の任期を 1 年というよう

なことからの影響か、19 世紀以降で政治家、行政官、軍人で切手になってる人物が非常に少ない。

スイス理解に不可欠な事項に言語がある。独、仏、伊、ロマンシュ語 4 ヶ国語を憲法で国語としている。しかし、伊、ロマンシュ語については国が保護しなければならない状態にあること、移民の増加で 4 ヶ国語以外の使用の増加、主言語の独語でも標準独語とかなり異なるスイス独語といわれる言わば方言の問題があり、意思疎通が困難な面から英語の使用が多くなり、第 5 国語になりつつあるという。（スイスにおける多言語・多文化主義 http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81008285.pdf）

権力から分離・自由と独、仏、伊、ロマンシュ語 4 ヶ国語で記された 18 州による国家 200 年、連邦憲法制定 150 年周年切手

周年切手から感じるスイス

発行割合が高い周年切手を周年数から整理し、他国と比較したのが図 3 である。前述したように紀元前を起年する周年切手が多い割にヨーロッパ 4 ヶ国より 500 周年以上が少なく、100 周年までの発行が 7 割を占め、わが国と同じく、明治年代の社会活動、変化の大きさとその現在社会に占める役割の大きさがあることを考えさせる。

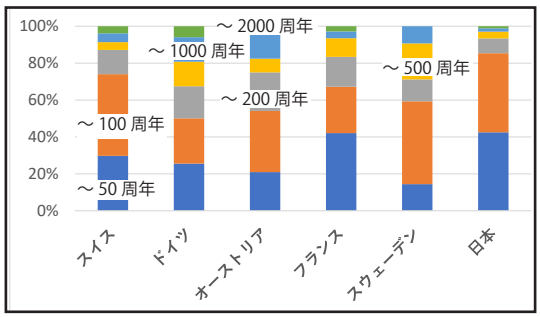


図 3　周年別割合の国別比較

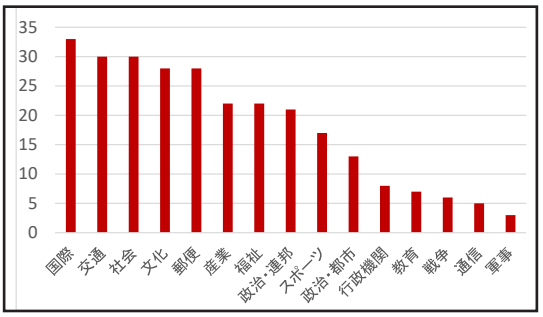


図 4　周年切手内容別発行件数

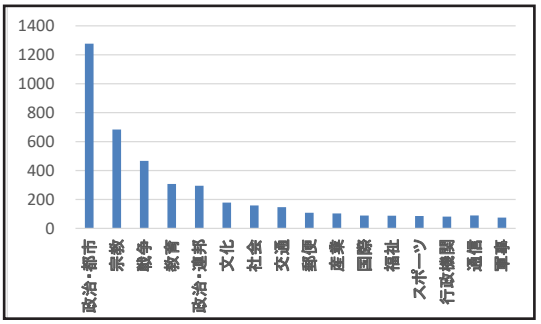


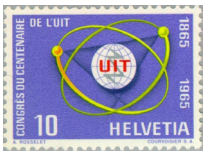
図 5　周年切手内容別平均年数

周年記念内容別に整理すると図 4 で国際的事項でのスイスの位置を、年数で整理すると図 5 の様になり都市からカントンそして連邦の成立への事項が非常におおいこと注意された。

国際的事項の周年記念が多い

各国とも発行が多い内容であるが、会議、大会等の催事でなく、国際機関、組織自体の設立、創立に関する発行が非常に多いのはスイスに本部を置く国際機関が多いことを反映している。ILO、電気通信連合、国際鉄道管理機構、国際警察機構 IOC、WWF 等以外、UPU は 75，100，125 周年以外に記念碑設置 100 周年切手が発行されてもいる。また他国では発行を見送られる機関、団体の事項での発行があり、スイスの国際社会での立場を意図する努力の表れを感じる。

ILO
50 周年
難民高等弁務官事務所
50 周年
IOC90
90 周年



国際鉄道管理機構　電気通信連合　欧州原子核
50 周年　100 周年　研究機構 50 周年

UPU 記念碑 100 周年　UPU125 周年
フランス人 彫刻家サン・マルソー像と記念碑

宗教関連の周年切手が少ない

周年切手に限らず宗教関連の切手が隣国のドイツ、特にオーストリアより非常に少なく 3 種にすぎない。他には普通切手に教会建物、美術工芸品が 10 種程度にみられる。100 種以上の宗教関連切手を発行するオーストリア、ドイツと異なり、「政教分離原則」（ライシテ）で宗教建造物以外少ないフランスと同じであったが、政教分離ではないスイス、カソリック、プロテスタント以外の宗派と宗教が多岐になこと、さらに強い主権をもったカントン相互の力が影響してることも考えられる。また、60 種程度発行されてるクリスマス切手に強いて宗教色を感じさせる物を探しても 2 種程度しか見だせない点もある。

聖ペドロ聖堂修復　ｻﾝﾓｰﾘｽ修道院建立ﾍﾞﾙﾐｽﾀｰｱｰﾁ型天井
50 周年　1500 周年　500 周年

クリスマス切手に宗教を感じさせる 2 種の切手
受胎告知　東方の三賢人を描く

宗教を感じさせない多くのクリスマス切手のうち 2 種

交通機関に関する周年切手が多い

九州と同面積に鉄道路線距離は 5,380km で路線密度が九州の約 2 倍となっている国だけに地方鉄道路線の周年を中心に多くの交通インフラにかかわる切手が多く発行されている。赤字路線切り捨てのわが国とちがい、オーストリアと同じく鉄道路線切り捨てによる沿線地域社会の衰退を防ぐことと観光事業の振興を意図し、地方鉄道路線維持への強い地方自治力をもつカントンの努力を国が側面から援助してることを示しているかと感じる。

また、大戦での戦費を使用しなかったことが道路網の充実を促しトンネルなどを完成させ、国民と観光客の重要な足 POSTBUS の堅実な運航を可能にしていることが見える。さらに航空事業に加え、内陸国であり海に接してないのに海運事業の切手も目にでき交通網をいかに重視しているかが切手から判断できる。

ﾛｰﾄﾎﾙﾝ鉄道　ﾍﾞﾙﾆﾅ鉄道　ﾚｯﾁｪﾍﾞﾙｸｸ鉄道　ｱﾌﾟﾄ式鉄道
125 周年　100 周年　100 周年　125 周年

ｺﾞﾙﾀﾞｺﾞ鉄道　ﾍﾞﾙﾆﾅ鉄道　ﾚﾃｨｼｭ鉄道　山岳ｹｰﾌﾞﾙｶｰ
100 周年　100 周年　100 周年　50 周年

シンプロン　ｸﾞﾗﾝ・ｻﾝﾍﾞﾙﾅｰﾙ間　ポストバス
トンネル 50 周年　トンネル開通　100 周年

スイス商船　ﾗｲﾝ航行　スイス航空　スイス航空
75 周年　50 周年　25 周年　50 周年

郵便関係切手が数が多く、内容も幅広い

多くの国と同じく郵便・切手に関する切手発行が件数で 16%、種類で 12％が郵便関係の切手が占め、UPU のお膝元のこともあるか、他国に比べ多く発行されている。内容としては切手の日、切手展以外に郵便輸送・作業を描いたもの、郵便の種類、カントン別配達夫姿、1998 年民営化したポストバスの歴史等スイスの郵便事業を網羅して紹介されている。また、注意されたのが切手趣味に関する周年切手が発行されてることだ。1990 年には切手趣味団体ができ、20 年後に切手商団体ができたことを示す切手は、ドイツ 1988 年発行使用済切手での福祉施設援助 100 周年切手を想起し、ヨーロッパの切手趣味の歴史と幅の広さを考える。更に、官営切手印刷所閉鎖記念切手の発行は他の国では見られない切手であろう。

湖船郵便運搬　今の郵便配達 20C　初頭配達　鉄道内区分作業
1987 年発行郵便輸送シリーズ 12 種の内の 4 種

郵便小切手用ポスト設置　自動車郵便局 50 周年　軍郵便輸送 100 周年　航空郵便 50 周年

馬車で始まり政府管轄で郵便物・乗客輸送と住民安否確認に活躍するポストバス。1998 年ｽｲｽｺﾑ通信と分割民営

ｶﾝﾄﾝ（州）ﾊﾞｰｾﾞﾙ、主権の強さを感じる配達夫姿 ｼｭｳｨﾂ、ｳﾘ、ﾂｰｸﾞ州の配達夫　1930 年開設政府切手印刷所閉所記念切手

切手趣味団体 100、125 周年　切手商協会 100 周年　使用済切手で福祉施設援助 100 周年 ドイツ 1988 年発行

ヨーロッパの切手趣味の歴史・幅を感じる

永世中立国へのステップがわかる

スイスといえば永世中立の平和国家というイメージだが、切手をみると幾多の戦を経験を乗り越えて今の国家ができ、その維持に多大の努力を払っていることが判る。まず、伝説のウイリアムテルがハプスブルグ家への反旗の行動であったように、周囲の強国の圧力に抗する戦の数々が切手になっている。

ウィリアムテルとリンゴを手にする息子

1380 年代、盟約を結んだウーリ、シュヴィーツ、ウンターヴァルデン３つのカントンがハプスブルグ家支配と戦い勝利し、更に加わったカントン連邦軍がネーフェルス戦、モルガルテンの戦等で勝利しオーストリアの支配から脱した。スイスが拡張政策を放棄し、兵士の強さが名を馳せ、血の輸出といわれる傭兵輸出に専念するようなった。しかしスペイン内乱への傭兵派遣を機に 1927 年に憲法で禁止となったが、現在もバチカン市国には傭兵を認めている。また、ジュネーブでのエスカラード戦い、イタリアに駐留したロシア軍の撤退を促すアルプス越えを認めたりして永世中立国への立場を固めたようだ。

独立戦争 600 周年　ネーフェルス戦 600 周　モルガルテンの戦 500 周年

バチカン傭兵 500 周年　エスカラード戦 400 周年　ﾛｼｱ軍ｱﾙﾌﾟｽ越え 200 周年

勢力均衡するヨーロッパ列強の緩衝的な地理的条件もあり主権維持の努力から 1814 年ウィーン会議で永世中立を承認されたがその立場を守るのは武装にも努めていることが切手からもわかる。スイスはスイス自体が軍隊だといわれるように徴兵制をとり 44 歳まで一定期間の訓練が課せられ、冷戦の最中には核シェルターの設置が義務付けられた歴史を持つ。現在も兵役の無いときは自宅に銃と一定の弾薬を保管する社会は日常抱くスイスのイメージとはかなり異なる。(小型武器の民間人所有率、スイスは米国、イエメン、フィンランドについで世界 4 位)

また、軍は国土の関係で自然災害に対する役割を持ち、医療機関組織との連携が求められている。

国境警備隊

非職業軍人団
100 周年

民間防衛
25 周年

女性軍補助隊
25 周年

スイス空軍
100 周年

防災防止事業
50 周年

職業、職業団体、産業を重視

山岳地帯の農業国であったスイス、貧しさからの脱却への努力が切手に見られる。フランスから亡命してきた時計職人が種と成り、立地に恵まれた白い石炭・水力発電も加わり、精密工業、金属工業、医薬化学工業へと発展してきている。現在では輸出品の主なものは化学・医薬品、精密機器であり、農業

化学工業協会
100 周年

金属加工労働者連合
100 周年

金属労働者
時計商連合 100 周年

手工業会
25 周年

精密機械製造業組合
150 周年

電子工学協会
100 周年

国から脱却している。

一方、他の国と比較すると、職業、人の働く姿を描く切手が多く発行されており、職業集団としても規模が小さい組合組織の周年切手が発行されているのが目立つ。このような

酪農協会
100 周年

パン製造職人組合
100 周年

肉や連盟
100 周年

美容師協会
100 周年

チョコ製造組合
100 周年

幼魚連盟
100 周年

切手のうち他の国に無い切手が注意された。耕作地の風景をデザインした農民連合 100 周年の切手である。スイスでは関税でなく、国策として環境保護、家並み保存、自然災害防止、国境監視を加えた直接金銭支給で農業保護してることを象徴しているようだ。スイスは 4% の農業人口で食糧自給率 56% を確保し、観光業の基礎を支えていることも考えさせる。更に就労場面をえがいた普通切手もなかなか見られない切手ではないだろうか。

農民連合
100 周年

薬剤師

大工

服飾人
1989 年から 1994 年

レンガエ

漁師

コック
普通切手職業人シリーズ

生物切手の発行に特徴

スイス切手の整理を始めて興味をひかれたのは美しい花が戦後 1940 年代の切手に咲き誇っていることである。過去、整理してきた 4 ヶ国 (オーストリア、ドイツ、フランス、スウェーデン) の花、昆虫、鳥、動物等の生物が切手に見られた時期を整理したのが図 6 である。他の国が環境、自然保護への関心の高まりとともに 1960、70 年代に発行を増やしているがスイスはそれ以前の 1940、50 年代に発行が多いことが明らかである。これら切手が児童福祉目的の寄付

1946 年発行

1950 年発行

1965 年発行

1968 年発行

1973 年発行

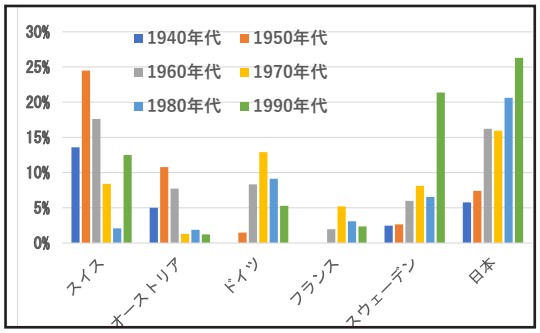


図 6　年代別 生物切手の国別発行割合

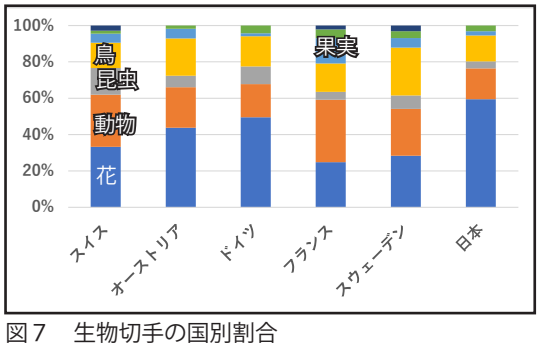


図 7　生物切手の国別割合

1946 年発行
地方の民家

1960 年発行
鉱石

1964 年発行
古銭

1980 年発行
看板 (床屋)

社会福祉寄付金付切手

金付切手であり、社会福祉目的切手と明確に図柄が異なることから自然保護、動物保護を意味するより、切手自体への注目度を意図したものであろうと考える。逆に、1961 年スイス・ニヨンに本部を置く WWF (世界自然保護基金) が設立されて自然保護への関心が増してきた時期から発行数が減じてきて発行目的を動物保護と明確にした切手の発行に移行した感じを受ける。

1959 年発行
動物保護

1976 年発行

2014 年発行
野生動物保護

切手に描かれた生物の割合を国別に見たのが図 7 である、各国それぞれの割合がみられるがスイスは他国に比較してバランスの取れた発行であり、中でも昆虫の割合が多いことが特徴といえるであろう。しかし、その大半が 1950 年代の児童福祉寄付金付切手であり、それ以外は 2002 年に発行された普通切手の 4 種のみであり、他の生物とは異なる発行経緯を持っている。また、各国とも発行の少ない魚類の切手が養魚連盟 100 周年切手 1 種のみであり生物自体を対象としての発行は見られない。これは内陸国としてのためであろう、オーストリアも極めて少ない。

1950 年代の寄付金付切手

2002 年発行普通切手

1983 年発行養魚組合
100 周年切手

風景切手の内容

スイスの風景切手をその対象割合を整理したのが図９である。過去整理した国と同様、建物の切手が最も多く、加えて普通切手に建物切手が一定程度を占めているが、スイスは自然風景をバックに生活、建物を配した切手、自然風景だけの切手が我国のように多くはないが、ヨーロッパの国としては非常に多く発行され、特に、隣国ドイツ、オーストリアとは全く異なる。自然景観に恵まれ名峰も多く、観光を重視する国であるが対象とする景観、名所を重複して発行することが少ない。例えば、マッターホルンは４種程度に見られるだけであり、我国で富士山が 100 種以上に眺められることは名峰に対する思いが異なることを考える。このことを 23 のカントンからなる地域主義に基づくバランスが不可欠になる連邦国家であることを考えるのは考えすぎか。

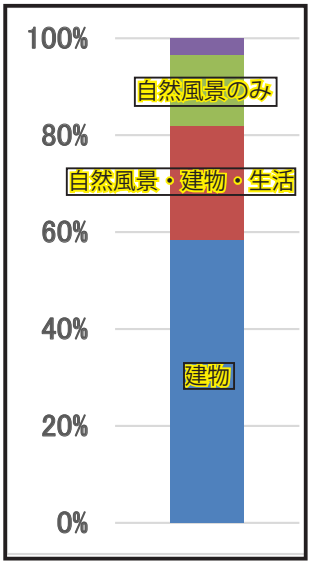


図８　風景切手の割合

自然と人、活動、鉄道など組合せ観光的魅力を向上

学生時代、スイスへの理解を刺激してくれた切

農家　　製粉所（水車）　　駅舎

通切手でスイスの国土、産業等を独自のデザインで描いたシリーズ切手の存在はこの観点で思い出される。

建物切手もお決まりの城、教会等、歴史的建造物の他に農家、駅舎などが対象が他の国に比べ対象が幅広く、国際機関の事務局が多く置かれているためであろう国際機関に関連した建物が切手になっている。

ヨーロッパでは少ない　建物等人工物が入ってない自然景観だけの切手

最後に

国籍をも与える権限も持つカントンという小国の集合体としての小さな国スイス。切手全体に白十字の国章、そしてカントン、都市の紋章が多く見られ、発行目的に地方主義、あらゆる領域で自治を重視すること、連邦への努力が切手を整理し感じ取れた。

笑論を終わるにあたり

ヨーロッパの５ヶ国の切手からその国を理解しようと試みた。宗教色の濃淡、風景・景観の捉えかた、人物・生物への思いを、各国の切手の DATABASE を作成し利用することで切手をながめるだけではつかみにくいものを感じ取ることができた。今後も、１枚の切手情報を集合、整理、分析できる収集環境を継続改良し、切手を所有するだけに満足することなき趣味活動に努めたい。